

[巻頭企画]

急な大雪で稼働ストップも 雪道の安心・安全走行 のポイント

降雪はトラック輸送に大きな影響を与えます。万が一スリップなどで事故を起こしてしまうと、甚大な被害が予想されるほか、後続車が進めなくなり交通まひを引き起こす可能性もあります。物流を止めないためにも、天候を事前に把握しておくことはもちろん、適切な対応を習得しておかなければなりません。

そこで今月号では、降雪による物流への影響や、雪道でのリスクを回避する運転方法について紹介していきます。

I. 雪道を走る心構えを万全に

トラックでのスリップ事故は交通まひの引き金に

1月、2月は強い冬型の気圧配置の影響により、断続的な降雪が交通に大きな影響を与えることがあります。2014年2月、関東甲信は内陸部を中心に記録的な大雪に見舞われ、影響を受けた山梨県では、各地の道路で車が立ち往生するなどの被害が発生。昨年1月には、日本海側を中心に雪が強まり、鳥取県では一時300台以上の車両が動けなくなり、自衛隊に災害派遣要請が出されるほどでした。

物流の動脈である国道や高速道路が大渋滞を起こせば、荷物を載せたトラックが目的地に向かず、配送先に商品を届けられない事態が発生します。国内貨物輸送の90%以上を担っているトラックが

動けないということは、すなわち国の経済活動がストップしてしまうのです。

稼働を止めないためにも、雪道に対する心構えは不可欠です。冬用タイヤは装着していても、タイヤチェーンを装着せずに「行けるだろう…」と雪が降る峠を登坂したところ、途中から登れなくなり、最悪スリップ事故を起こしてしまう可能性もあるでしょう。さらに後続車も登坂不能になるため、交通まひ状態に陥ってしまうことも。雪道への心構えとして、冬用タイヤの装着はもちろん、タイヤチェーンの携行および正しい装着位置の確認(※ページも徹底)しましょう。

タイヤチェーンの携行をお忘れなく!

積 雪や凍結した道路を安全に走行するためには、「冬用タイヤを全輪に装着」し、峠など急な坂道を走行する場合に備えて「タイヤチェーンを携帯」しましょう。冬用タイヤに関しては、性能は年々高くなっていきますが、絶対にスリップしないものはありません。過信せず、慎重な運転を心がけてください。

タイヤチェーンの装着位置 ●装着位置

●トラック

すべての駆動輪軸に装着します



2軸駆動車の場合

●トラクター・トレーラーの場合

すべての駆動輪軸とトレーラー最後部に装着します



2軸駆動トラクターと2軸トレーラーの場合

タイヤチェーン装着時の注意点

・事前に確認を!

必ずタイヤのサイズにあったものを選んでください。説明書に従い事前に装着の練習をしておく、実際の雪道での装着時にスムーズに作業ができます。

・確実な装着と十分な点検の実施を!

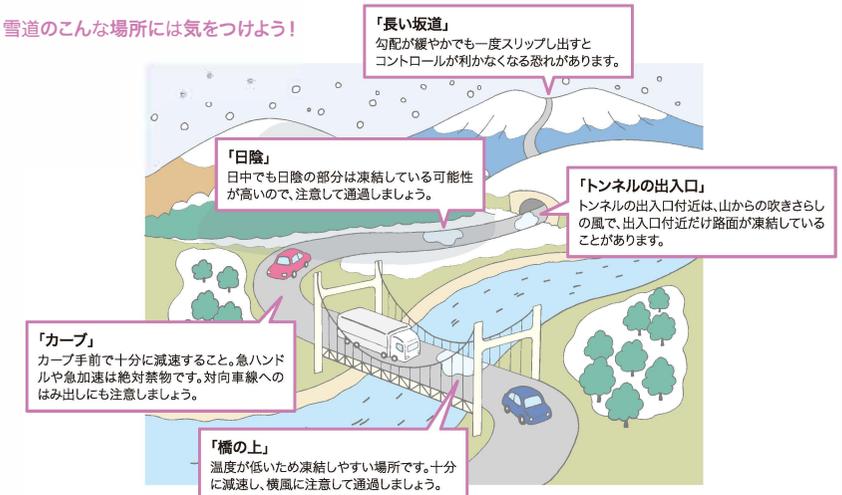
チェーンの緩み、ゴムバンドなどのフックへの掛け忘れはチェーン脱落の原因となります。また、チェーンの磨耗・損傷はチェーン切れの恐れがあるため、点検を忘れずに。

出典:公益社団法人 全日本トラック協会「雪道対策マニュアル」

雪道の注意スポットを知り、危険を回避

雪 国の人が、他の地域の人と比べて雪道での事故が少ないのは、運転技術が高いからではありません。それは経験により、危険な場所や状況を予測しながら運転しているからです。雪道に不慣れな人でも、注意すべきスポットをあらかじめ知ってから走行すれば、危険を回避する確率が高まります。

雪道のこんな場所には気をつけよう!



出典:国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所「あなたの運転は大丈夫? 雪道走行の心得」、公益社団法人 全日本トラック協会「雪道対策マニュアル」

II. 雪道走行のポイント

雪道は、普段では思いもよらないトラブルが起きる怖さがあります。トラックでスリップや事故を起こすと、大きな迷惑をかけてしまうことを念頭に置きましょう。ここでは出発前から、走行中や緊急時の対応まで雪道を走行する際のポイントを紹介します。

出発前



気象や道路の情報を確認!

通過する地域の気象や道路状況を出発前に確認してください。悪天候が予想されるなら、安全・確実に荷物を届けるために運行経路の変更も必要です。また、運行地域の例年の初雪時期を確認しておくことで、降雪の予測がつくので余裕を持ってタイヤ交換やタイヤチェーンなどの用意ができます。

出発時



燃料を満タンに! 給油も早めに!

雪道では、通常走行時のほか渋滞・ストップ時でも暖房のためエンジンは掛けっぱなしになり、燃料が早く消費されます。また、マイナス10数度にもなる気温の中で燃料切れを起こせば、生命の危機に直面することも考えられます。冬期はいつもより早めの給油が鉄則です。

走行中



車間距離を十分にとり、心と時間にゆとりをもって!

路面凍結時において、「急」のつく運転はスリップの大きな要因です。多めに車間距離をとり、ゆとりをもって走行しましょう。また、小型車は「わだち」でハンドルが取られ、横滑りしやすいので注意してください。

緊急時



強い地吹雪が発生したら、すぐに安全な場所に避難!

地吹雪時には、視界がゼロとなるホワイトアウト現象が起こりやすくなります。焦らずハザードランプをつけ、スピードを落としてガソリンスタンドやコンビニなど安全な場所に待避してください。ただし急ブレーキをかけるとスリップする可能性があるので厳禁です。

公益社団法人 全日本トラック協会「雪道対策マニュアル」

III. 万一の際は適切な対応で危険を回避

突然の豪雪で身動きが取れなくなり、車内で待機せざるを得ない場合があります。そういうときに備えて車内には手袋や防寒着、けん引ワイヤーなどを常備しておくといいでしょう。また、地吹雪などで危険を感じたら最寄りのガソリンスタンドやコンビニ、道の駅、サービスエリアなど安全な場所で停車し、天候回復を待ちましょう。下記に、動けなくなった場合の対応方法と、雪道走行時の必需品をあげました。雪道を走る際は万全の心構えでハンドルを握り、安全運転に努めてください。

もし動けなくなったら…

①車から離れない!

- ・避難できる場所や救助を求められる人が確実に確認できるとき以外は、**不用意に車を離れてはいけません。**
- ・不用意に車を離れると吹雪の中で自分の位置を見失い、遭難する恐れがあります。
- ・車道では後続車が走行してくる場合があるので、交通事故には十分注意する必要があります。

②救助を求めるときは

- ・ハザードランプを点灯させると同時に停止表示板や旗(明るい色の布)を掲げ、**停止していることが他車にわかるようにします。**
- ・警察や消防、ロードサービスに電話で救助を求めるときは、できるだけ自分の位置を正確に伝えてください。
- ・国道番号と位置は、道路わきに1km毎に設置された地点標(キロポスト)に示されています。

③救助を待つ間は

- ・服が濡れている場合は着替える、毛布がある場合は羽織る、暖かい飲み物を口にするなど、**あらゆる防寒対策をとりましょう。**
- ・車内の暖房は、燃料切れやバッテリーが上がらないように注意しながらつけましょう。
- ・排気口が雪に埋まると、車内に排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒になります。マフラー付近が埋まらないよう除雪を行い、風下側の窓を少しだけ開けて換気しましょう。
- ・夜間で同乗者がいる場合は交代で睡眠をとり、一人は必ず起きていて救助が来ないか確認しましょう。

万一に備えて常備したい冬道走行の必需品



- ・タイヤチェーン
- ・ブースターケーブル
- ・スコップ
- ・懐中電灯 など

出典:国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所「あなたの運転は大丈夫? 雪道走行の心得」、公益社団法人 全日本トラック協会「雪道対策マニュアル」